石川町（いしかわちょう）

古代豪族蘇我氏の拠点

日本最初の歴史書・日本書紀に登場する「石川」の地名は、たいへん古いものです。書紀によりますと、古代豪族蘇我氏の祖とされる武内宿禰（たけのうちすくね）の子で、蘇我氏初代の「蘇我の石川」がこの地に「畝傍の家」と呼ぶ邸宅を構えていたらしく、このことで石川の地名が生まれたと考えられています。

邸宅は、蘇我六代目の馬子の時代まで建っていたようで、馬子が「邸宅の東方に仏殿をつくり弥勒の石像を安置した」とも見えます。真の、日本仏教の始まりでしょうか――。

記録を追いますと、五代目の稲目が「畝傍の家に美女二人を囲っていた」のほか、大化改新で中大兄王と中臣鎌足に討たれた七代目蝦夷も、この邸宅に「池を穿（うが）ち城となし蔵をたて箭（矢）をそなえ、常に兵士五十を身のまわりに率（ひき）い従えた」などの記録が残っています。「石川」は長い間、蘇我氏にとり大切な拠点だったのです。

日本仏法最初の「石川精舎跡」と伝わる本明寺が、町の南西に現存しています。